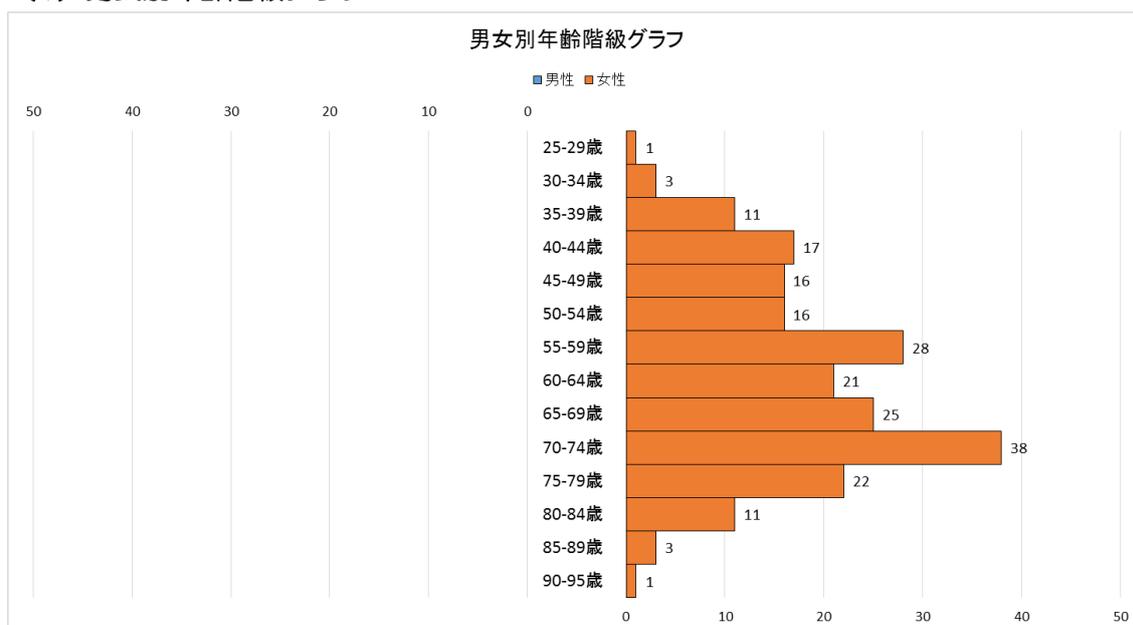


## 乳がん5年生存率

元データ	院内がん登録データ（2012年～2013年診断症例）
腫瘍情報	当院にて治療した症例（経過観察を含む）
観察終了日	診断日から5年（1825日）
予後調査	来院情報、他施設照会、新聞お悔やみ情報、役場照会

症例数	213件
平均年齢	58歳
消息不明数	2名
消息判明率	99.1%

### （1）男女別年齢階級グラフ



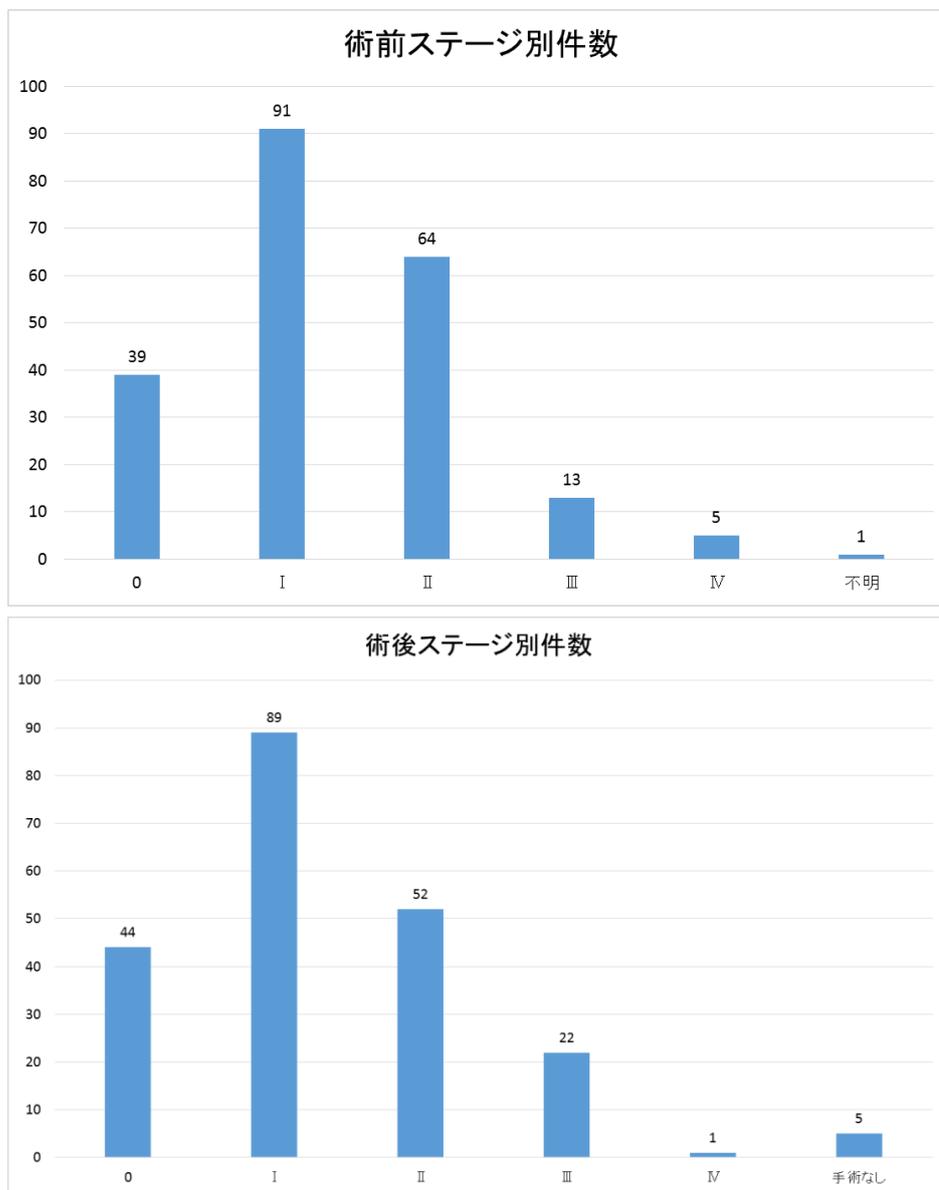
#### 【解説】

乳がんは、わが国の女性のがんの中で罹患する人が多く、死亡原因の上位に位置するがんです。

2012年から2013年に当院で治療した乳癌症例は213人で、平均年齢は58歳でした。70歳前半が最も多く、次いで50歳後半となっています。35歳未満の乳癌は4例(1.8%)で、非常に少ないことがわかります。

また乳癌は稀に男性にも発生しますが、当院の今回の対象データでは、男性乳癌は0でした。

## (2) 乳癌の病期別（ステージ）症例数



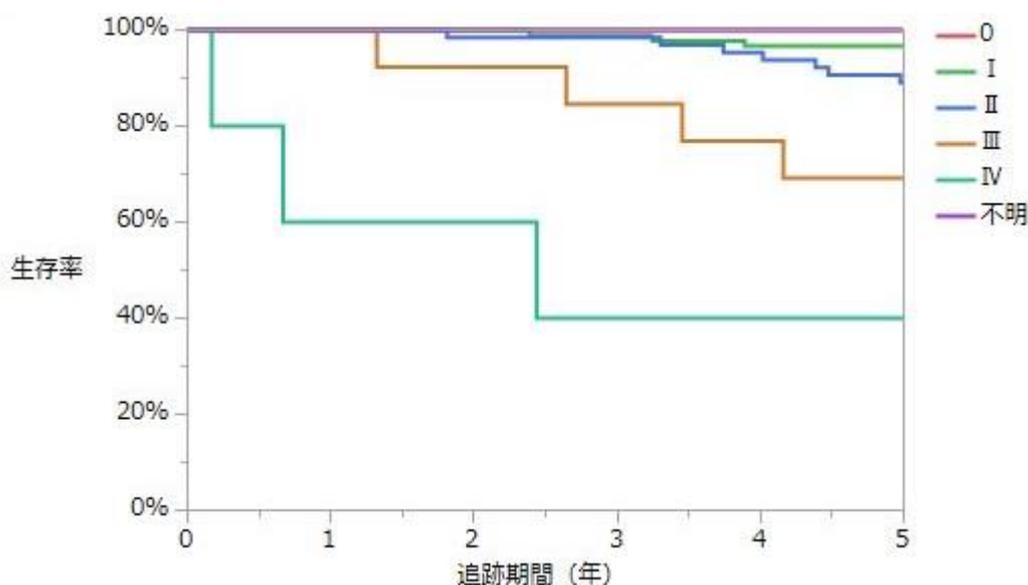
### 【解説】

病期（ステージ）とは、がんの進行の程度を知るための指標です。がんがどのくらいの大きさになっているか、周辺のリンパ節に転移しているか、別の臓器への転移はあるかなどによって、0～Ⅳの5つに分類されます。病期（ステージ）がⅣに近づくほど、がんが進行していることを示します。病期分類の方法にはいくつかの種類がありますが、ここでは乳癌取り扱い規約に基づいて表記しています。

術前ステージは治療前に得られた情報に基づく治療前臨床分類、術後ステージは手術等で得られた情報により補足修正した分類のことで。

当院では、早期乳癌と呼ばれるステージ0～Ⅰが全体の60%以上を占めています。初診時から転移を有するステージⅣ乳癌は全体の約2%でした。

### (3) 5年生存率（術前ステージ）



	対象数	生存	死亡	消息不明	5年生存率	平均年齢
Stage0	39	38	0	1	100.0%	61.3
Stage I	91	87	3	1	96.7%	55.5
Stage II	64	57	7	0	89.1%	57.4
Stage III	13	9	4	0	69.2%	66.8
Stage IV	5	2	3	0	40.0%	49.2
不明	1	1	0	0	100.0%	46.0

※不明：診断目的で手術し、手術病理結果にて診断となったため術前ステージは不明となっている。術後ステージは、0となっている。

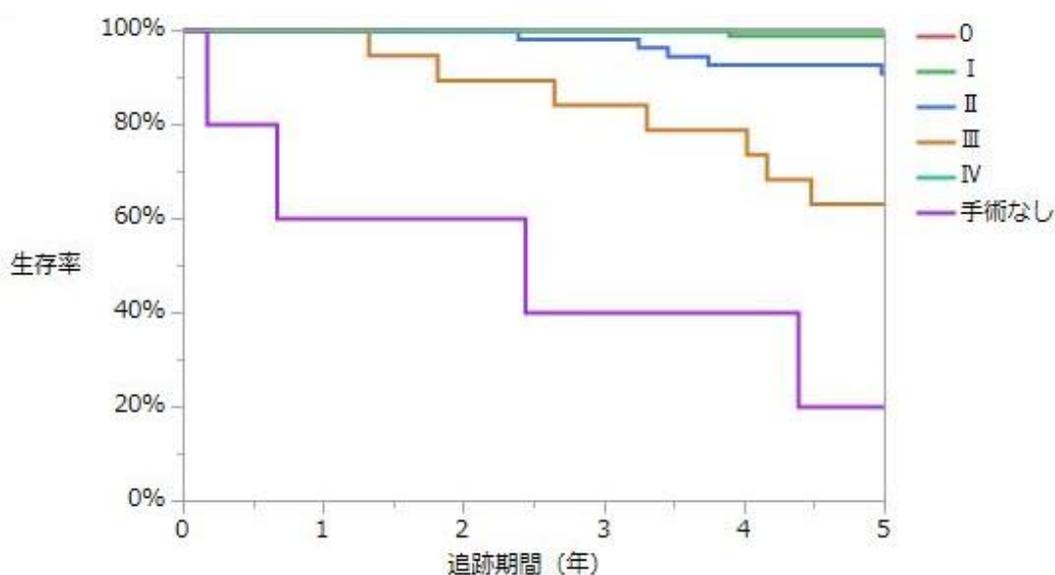
#### 【診療部からのコメント】

生存率グラフは、横軸は診断されてからの経過時間、縦軸は生存率を示しています。線が100%に近いほど、多くの患者さんが生存されていることを表しています。時間がたつにつれ、患者さんが亡くなっていかれるため生存率は右下がりになっていきます。この調査では乳癌以外の理由で亡くなられた場合も含まれています。

ステージ0～Ⅰの場合、5年生存率は95%をはるかに超えており、乳癌にかかっても多くの患者さんは治ってしまうことがわかります。

転移を伴うステージⅣ乳癌であっても、5年後に40%の患者さんは存命されており、乳癌は治療が効きやすくゆっくりと進行する癌であるといえるでしょう。

#### (4) 5年生存率（術後ステージ）



	対象数	生存	死亡	消息不明	5年生存率	平均年齢
Stage0	44	43	0	1	100.0%	60.6
Stage I	89	87	1	1	98.9%	55.2
Stage II	55	50	5	0	90.9%	58.1
Stage III	19	12	7	0	63.2%	61.7
Stage IV	1	1	0	0	100.0%	50.0
手術なし	5	1	4	0	20.0%	55.6

※Stage0～StageIV：208 症例中 46 症例は術前治療ありのため術前治療後術後ステージ (ypStage) で集計している。46 症例のうち、ステージが上がっているのが 8 症例、同じが 27 症例、下がっているのが 11 症例となっている。

※手術なし：手術施行なしで術後ステージが不明の症例。生存の 1 症例は、術前ステージ IV。死亡の 4 症例のうち、3 症例が術前ステージ IV、1 症例が術前ステージ II。

#### 【診療部からのコメント】

術前ステージと術後ステージには二つの理由で差が生じます。一つは実際に手術したら術前進行度と違っていただけの場合、もう一つは術前治療を行った場合です。リンパ節転移があると思って手術したが実際は転移がなかったためステージが下がった、逆にリンパ節転移が見つかりステージが上がったなど、手術して初めてわかることがあります。また、乳癌では癌のタイプに応じて手術の前に抗癌剤などの術前治療を行うことがあります。術前治療がとても効いたために、たとえば 3 cm のしこりが 1 cm になり、ステージが下がる場合があります。

こちらの分類では、高齢や進行癌などの理由で手術を受けなかった患者さんにステージをつけることができないため、「手術なし」としてまとめられています。この場合背景に手術

できない理由があるため、ほかのグループに比べて生存率は低くなります。  
ステージⅣに関しては、手術を受けた患者さんは一人だけなので、生存率はあまり参考になりません。  
全体としては、術前ステージと術後ステージによる生存率にはと大きな変化はないように見受けられます。